

Net Audio

必聴のハイスペック音源をフリーダウンロードで入手!

付録 録り下ろしハイレゾ音源

キングレコード発、最注目ジャズトリオのアルバム未収録音源!

東京キネマ・ジャズトリオ DSD11.2MHz
DSD5.6MHz

パーカッション界の重鎮が奏でる圧倒的なグルーヴ

今村祐司 PIT INN LIVE FLAC
DSD

ハイレゾ録音研究所による実験的聴き比べ音源

宮崎友紀子 WAV

vol. **20**
2015 WINTER

Phile
web

最新版・ハイレゾ再生のための
マエ基本&良音化



20号記念 超豪華モニター大募集!

ドイツ・ハイエンドブランドの Evolution シリーズの実力を探る

ドイツのアコースティック・アーツは、ピュアオーディオシーンで急速に注目度を高めてきているハイエンドブランドである。音楽再生に真摯に取り組む姿勢が、製品から如実に感じられるのが注目される理由であろう。同ブランドの製品群は三つのグレードに分類される。ここでは、エントリークラスとなる「Evolution Series」にスポットを当てて、その魅力を探ってみたい。

Text by 石原 俊 Shun Ishiha

Photo by 田代法生



STREAMER ES

ネットワークプレーヤー
¥680,000(税別)

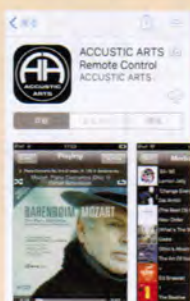
細部まで徹底した
デザインコンセプト

アコースティック・アーツは自動車産業で有名なシュトゥットガルトに本拠を置くオーディオ・エレクトロニクスブランドである。創業は1996年で、比較的若い企業といっていだろう。

同社の製品の最大の特徴は、美しくて剛性の高い筐体デザインである。このデザインコンセプトは製品の細部まで徹底しており、緩みはもちろんのこと、がっしりとした手応えがない部分は皆無といった過言ではない。これは国産機には真似のできない製品作りである。昨今は我が国のオーディオ・エレクトロニクスもずいぶん頑丈に作られるようになったが、ドイツ的なシッカリ感は残念ながら存在しない。そういうばクルマでも、国産にはドイツ製のような剛性感はない。おそらくは民族的なサムシングが両国の工業製品に大きく影響しているのだろう。

POWER ES・MK2は同社のエントリークラスのプリメインアンプだ。美しく剛性の高い筐体は上級機譲りで、ボリウムノブとセレクトノブの操作感、フィルム時代のドイツのカメラの

■ ハイエンドならではの細部まで作り込まれた製品群



STREAMER ESはiPhoneやiPadおよびAndroid端末での操作が可能(写真はAPP STOREでのダウンロード画面)

Specifications

<PLAYER ES-MK2>●対応ディスクフォーマット:CD、CD-R、CD-RW●アナログ出力:RCA 47Ω●デジタル入力:RCA同軸 75Ω、USB 2.0(24/192 asynchr onous)●対応データフォーマット:up to 24 bit/192 kHz(ALAC、FLAC、AIFF、W AV etc.)●DAC:24bit/192kHzアップサンプリング●歪(THD+N):0.0014%●クロストーク:121dB with digital 0dB●サイズ:482W×96H×437Dmm●質量:7kg
<POWER ES-MK2>●入力:XLR×2、RCA×2、RCA(SURROUND-BYPASS)●ヘッドフォン出力:メタルジャック 6.3mm 34Ω●出力:RCA 34Ω●左右信号差:0.4 dB以下(0~40dB)●入力インピーダンス:50kΩ×2/XLR、50kΩ/RCA●パワー出力(THD+N=0.1%):90W/ch(8Ω)、120W/ch(4Ω)●立ち上がり/下がり時間:4.6μs@4Ω●S/N:-90dB(ref.6.325V)●歪:0.0049%(8Ω、1kHz、10W)、0.0089%(4Ω、1kHz、10W)●ダンピングファクター(THD+N):500以上●消費電力:40W(無負荷)●サイズ:482W×96H×400Dmm●質量:約11kg
<STREAMER ES>●対応オーディオフォーマット:FLAC/WAV(up to 24/192 incl.88.2 and 176.4)、ALAC(up to 24/48)、WMA9-lossless、Ogg Vorbis 1.0、MP3、AAC 全てのフォーマットに対しギャップレス再生●対応メディアサーバー:Windows Media Player 11(Windows XP/Vista)、Windows Media Player 12(Windows 7)、DLNA certified media servers(e.g.Twosky Media)●ネットワーク入力:LAN(Ethernet 10/100 Mbit/s):RJ45、Wi-Fi(IEEE 802.11 b/g/n):2.4GHz via Wi-Fi max.24/96 possible●USBフラッシュ/ハードディスク:FAT 16 ないし FAT 32●アナログ出力:RCA 47Ω●デジタル出力:RCA同軸 75Ω●デジタル入力:RCA同軸 75Ω●USB入力:USB ハイスピード 2.0(タイプAソケット)●DAC:24Bit/192kHz アップサンプリング●高調波歪(THD + N):0.002%●クロストーク:119dB(デジタル 0dB)●S/N:-96dB(負荷あり)●サイズ:482W×96H×370Dmm●質量:6kg●取り扱い:(株)ハイファイ・ジャパン



STREAMER ESのリアパネル。アナログ出力はRCA端子1系統。デジタル出力はRCA同軸1系統。USBはタイプA入力端子をフロントとリアパネルに装備している。ネットワーク入力LANとWi-Fiに対応



PLAYER ES-MK2の背面。アナログ出力はRCA端子1系統。デジタル入力はRCA同軸とUSBタイプBを装備する



POWER ES-MK2のリアパネル。入力端子は前継機では入力端子はRCAのみだったが、本機からXLR入力が追加された



POWER ES-MK2のリモコンはボリュームの操作のみとシンプル



PLAYER ES-MK2の付属リモコン。ESシリーズの他モデルも操作可能



STREAMER ES付属のリモコン

STREAMER ESはアコースティック・アーツがラインアップする唯一のネットワークプレーヤーだ。基本的にはNASと接続して使用するのだが、フロントパネル中央右にUSB A端子入力があるので、そこにUSBメモリを挿して使うことも

フォーカス調整機構を思わせる。この感触ばかりは国産機には絶対に得られない。MK2化に伴って増設された本格的なヘッドフォンアンプ部はディスクリット構成で、セレクターノブの右横のスイッチでON/OFFをする。ボリュームノブの左横の突起はヘッドフォンジャックのカバーだ。出力は90W×2(8Ω)/140W×2(4Ω)と、このクラスのプリメイン機としては標準的だ。

PLAYER ES-MK2は最もベーシックなCDプレーヤー/USB DACである。MK2になってUSB入力が192kHz/24bitまでの対応となった。エントリークラスだが作りは上級機譲りで、ディスクトレイの左右にガイドロッドが取り付けられている。これは単なるデザインのためのデザインではなく、トレイの剛性を高めるうえで効果的であるといえよう。

STREAMER ESはアコースティック・アーツがラインアップする唯一のネットワークプレーヤーだ。基本的にはNASと接続して使用するのだが、フロントパネル中央右にUSB A端子入力があるので、そこにUSBメモリを挿して使うことも

音の話の前に、アコースティック・アーツ社の製品のリモコンの使いやすさについて特記しておきたい。ESシリーズのモデルに付属するリモコンは上級機のように贅沢ではないが、シンプルで直感的に操作できる。さて、肝心な音である。まずはPLAYER ES-MK2とPOWER ESの組み合わせを聴いた。スピーカーはエラックのFS249BEを使用したのでオール・ドイツ製ということになる。そのサウンドはドイツ製らしく剛性感が支配的だ。全体にがっしりしていて、低音が筋肉質で無駄な膨らみがなく、それでいてボトムエントまでしっかりと伸びており、トータル的な解像度が極めて高い。

音の話の前に、アコースティック・アーツ社の製品のリモコンの使いやすさについて特記しておきたい。ESシリーズのモデルに付属するリモコンは上級機のように贅沢ではないが、シンプルで直感的に操作できる。さて、肝心な音である。まずはPLAYER ES-MK2とPOWER ESの組み合わせを聴いた。スピーカーはエラックのFS249BEを使用したのでオール・ドイツ製ということになる。そのサウンドはドイツ製らしく剛性感が支配的だ。全体にがっしりしていて、低音が筋肉質で無駄な膨らみがなく、それでいてボトムエントまでしっかりと伸びており、トータル的な解像度が極めて高い。

低音が筋肉質で無駄な膨らみがない

できる。データのクオリティはPCM192kHz/24bitまでの対応だが、実用上困ることはほとんどないだろう。

REFERENCE SERIESは注目に値する フラッグシップ・シリーズである



REFERENCE SERIES のCDプレーヤーPLAYER II(写真手前、¥2,500,000)とモノラル・パワーアンプMONO II(写真奥、¥2,600,000/ペア)。ベースボードはオプション(¥140,000/ペア)

特に注目すべきモデルは
CDプレーヤーとモノラル・パワーアンプ

ACCUSTIC ARTSのフラッグシップとなるのが、REFERENCE SERIESである(モデル名末尾に「II」あるいは「III」がつけられている)。同シリーズで特に注目すべきモデルは、CDプレーヤー/USB DACのPLAYER IIとモノラル・パワーアンプのMONO IIだろう。PLAYER IIは天板中央にドライブメカを配置。ボリュームを装備しているので、パワーアンプに直接接続することができる。MONO IIはA級動作で300W(8Ω)、700W(2Ω)のハイパワーを持つスリムなタワー型アンプである。

同ブランドはコンポーネントだけではなく、各種ケーブルや電源タップ、音楽ソフトまでを手がけており、今後も注目に値するハイエンド・ブランドであると言える。(編集部)

音像の彫りが深く精悍で重量感があり 異例なほど空気感が清潔な再生音

ているように感じられるのだ。おそらくはトランスやコンデンサーの使い方のセンスが日本人とは微妙に異なるのでタイミングに微妙な差異が生じるのだろう。

ジャズは彫刻的。サウンドの造形が3D的で、音像の彫りが深く、精悍で、ナマ音よりも重量感がある。またこの種の音楽の再生音としては異例なほど空気感が清潔だ。ヴォーカルは音像がキリッと引き締まったハイエンド調。音像の剛性が極めて高く、無用に膨らむことはない。クラシックのオーケストラものは最も得意とするジャンルであろう。前述のようにPOWERES・MK2の出力はスベック上こそ限定的だが実力的にはドライバビリティが非常に高い。USB入力の音はディスクとはニュアンスがやや異なる。音楽への介入感が希薄で、ちよつと素気ないのだ。CD再生時のようなオシヤレ感の後退するのだが、これはこれで正しい再生といえるだろう。データのクオリティには素直に反応するので、サンプリング周波数とビットレートが高ければ高いほど高い解像度が得られる。

目の覚めるような音像と
広げて清潔な音場

ここでソース機器をSTREAMERESにチェンジした。基本的にはPLAYERESのUSB入力と同じような音だが、CDクオリティに関しては少しニュアンスが違って、PLAYERESのCD再生で感じられたサービスピ精神のようなものが含まれている。このあたりがPCとネットワークプレーヤーの違いなのだろう。ハイレゾデータのクオリティに対する反応は素直で、クオリティが高ければ高いほど解像度が高くなるのはもちろんのこと、マルチマイクがワンポイントかなどといった録音状況すら、すんなりと示される。NASのクオリティへの反応も素直で、高級ストレージを使用すると目の覚めるようなフレッシュな音像と広げて清潔な音場が得られる。コントロールアプリはiPhone、Androidとも用意されている。ESシリーズに興味のある方にとって、PLAYERES・MK2を採るか、STREAMERESを選ぶかは悩むところであろう。月並みなアドバイスだが、膨大なCDコレクションの保有者には前者が、これからオーディオを、という方には後者がお薦めである。

Accoustic Arts

POWER ES-MK2

プリメインアンプ
¥670,000(税別)



PLAYER ES-MK2

USB DAC内蔵CDプレーヤー
¥670,000(税別)



Finest Music Components
Handmade in Germany



Evolution Series

STREAMER ES Network music player ¥680,000

PLAYER ES - MK2 CD player + external D/A converter ¥670,000

POWER ES - MK2 Integrated stereo power amplifier ¥670,000

www.accusticarts.com / www.hifijapan.co.jp